



飛鳥路の歴史

古代～中世～近世～現代　日本の古い歴史が息づく、自然に恵まれた町の歩み

- 859（貞觀元年）5月28日 飛鳥村氏神天神社に山城国政住上
天照御門神並に從五位下（現、天照御門神社）飛鳥路に祭祀
- 1233（天福元年） 東明寺（現飛鳥路）の大般若経校合
- 1416（応永23年） 東明寺大般若経補写
- 1549（天文18年） 大般若経、飛鳥路神宮寺（東明寺）にて信読
- 1729（享保14年） 現飛鳥路（山城国高八郡村名帳）によると石高16777石 柳生藩領
- 1772（安永元年）10月 飛鳥路村と笠置村が船浜で争論をおこす
- 1871（明治4年）7月 廃藩置県、南笠置、北笠置、切山、下有市、上有市は津県、飛鳥路は柳生県
- 11月 上記六カ村が京都府に編入 笠置郵便局創設
- 1879（明治12年）3月 京都府が郡、区町村割を実施
- 12月 第8組設置（切山、笠置、有市、飛鳥路の四ヶ村）
- 1883（明治16年）10月 有市、東部、飛鳥路に分校を新設
- 1884（明治17年）6月 聯合戸長役場（笠置、切山、有市、飛鳥路の四ヶ村）設置
- 1887（明治20年）7月 学校令が制定される。笠置小学校は笠置尋常小学校と改称、
(南笠置、北笠置、切山、上有市、下有市、飛鳥路)
- 1889（明治22年）4月 市制、町村制が実施され（笠置、切山、有市、飛鳥路）笠置村設定
- 1892（明治25年）4月 飛鳥路分校廃止される
- 1898（明治31年）11月 関西鉄道開通（加茂～奈良間大仏線開通）
- 1907（明治40年） 関西水力電気株式会社布目川に第2発電所設置（工期明治38年～明治40年）
- 1922（大正11年） 東明寺大般若経全巻のうち38帖を奈良国立博物館へ寄託
- 1934（昭和9年）1月 笠置村に町制が施行され笠置町となる
- 1957（昭和32年） 潜没橋完成・開通
- 1963（昭和38年）10月 天照御門神社の大鳥居井上義雄氏献生
- 1864（昭和39年） 庄屋庄七石塔顕彰会
- 1983（昭和58年）2月 飛鳥路集会所竣工
- 1986（昭和61年） 飛鳥路東の坊で銅造聖観音座像発見される
- 1998（平成10年）3月13日 飛鳥路勧請縄 京都府登録無形民俗文化財指定
- 2000（平成12年）3月17日 京都府書跡文化財指定 飛鳥路東明寺の大般若経588帖
奈良国立博物館及び山城郷土資料館へ寄託
- 2011（平成23年）1月 2日 東明寺落慶法要
- 2017（平成29年）8月21日 京都府有形民俗文化財暫定登録
飛鳥路東明寺の牛玉、札、用具一式五点